1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600184
法人名	医療法人　竜門堂
事業所名	竜門堂グループホーム　ことぶき荘
所在地	佐賀県武雄市山内町大野6360番地6 （電　話）0954-20-7119

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年6月25日

【情報提供票より】（平成21年2月28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成15年10月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8　人	常勤　7 人，非常勤　1人，常勤換算　5．5人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての　1階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,600　円		その他の経費（月額）	実費　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	380　円	昼食	500　円
	夕食	500　円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（　2月　28日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		2　名	要介護2	3	名
要介護3		3　名	要介護4	1	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	79.6 歳	最低　61 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	大野病院　竜門堂医院　ふるの歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

黒髪山のふもとの静かな町の中に位置し、元結婚式場だった鉄筋2階建ての1階部分を改装した造りとなっている。広い玄関からは入居者の思い思いにゆっくりと過ごされている姿が窺える。台所と居間と食堂がひとつの大きなホールの中にあり、入居者とスタッフがいつも一緒である。高齢者にとって問題と思われる段差も日常の生活空間としてADL向上につなげた支援を行っている。併設の病院が近くにあり医療との連携は密に行われ家族の安心にもつながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

これまでの評価を生かし、ホーム便りの発行、ぬくもりのある表札作り、地域とのつきあいなどについて改善に結び付けている。前回は災害対策が改善課題となり、スプリンクラーの設置が計画されている。入居者と一緒に防災訓練を実施し、地域の方への協力依頼などできることから取り組んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

運営推進会議の充実、介護計画の更なる充実、地域との交流、家族と入居者との交流、心地よい環境作り、災害対策など様々な面での更なる充実につなげている。できることから取り組みサービスの質の向上に活かしている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会護のメンバーは入居者、家族、地域の代表者、行政担当者、法人関係者で構成されている。ホームのあり方、ケアの実際など見てもらっている。参加しやすいように行事などと組み合わせることもある。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部78）

意見箱の設置、苦情受付の仕組みの掲示、面会時の声掛けなど様々な機会を作り、本人や家族の真意を汲みとろうと努力している。金銭管理も口頭での説明と書面での署名捺印で確認している。入居者の様子や職員の異動などは面会時に話したり、荘だよりでも紹介している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の行事で流鏑馬祭りへの参加は恒例となっている。地区の運動会や、おくんちは入居者の希望を尊重しながら参加している。近所の人とは散歩や買い物の途中で挨拶を交わす関係である。時には畑の作物を頂くこともある。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、家族、スタッフ等に対し解りやすい「一緒に楽しくのんびりと 家族のような手の温もり、黒子のケアー（できることの喜びの支援）」とした事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和している。理念はホーム内の要所に掲示し、日々実践の中で意識しながらケアに取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事に参加したり、日々の散歩の中では挨拶を交わしたりしている。また近所の方々から花や野菜を頂くこともある。「荘だより」を近所に配り、交流の糸口作りの努力をしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価によって見いだされた課題については改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホームの現状を理解してもらうよい機会と考えている。意見の出しやすい雰囲気作りを心がけ、出された意見に対しては真摯に受け止めサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議だけでなく相談事があるときには電話などで相談している。関係部署の担当者が来所されることも多い。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状況は面会時や電話等で連絡している。金銭管理については出納簿のコピーと領収書を渡し確認を行っている。生活の様子や職員の異動については面会時や荘だよりで紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。家族の面会時に近況報告を行うとともに意見を聞くようにしている。意見はサービス改善の機会ととらえ、これまでも数件の意見が出され、改善が図られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者の理解により職員の異動は極力抑えられている。馴染みの関係が大切なことを理解し、入居者への紹介や勤務体制の配慮などを工夫し、できるだけダメージを少なくする努力を行っている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には教育機関があり、月1回の研修会に参加している。県外の研修や資格取得のための法人の支援もある。管理者による職員への自己啓発意欲を促す努力もされている。研修参加後は、その報告があり、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に入っており研修や勉強会に参加し、その内容は日々の支援の中で実践につなげている。近くの施設から職員の見学、研修参加の交流も行われサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族との面談による情報収集を行い、生活歴などに配慮したケアを心がけている。数日間体験入居される方もいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることを奪わないケアを心がけている。料理、生活の知恵、風習など教えてもらい日常生活に生かすなどして、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士の会話や、職員と交わす会話の中からそれぞれの思いや意向を尊重している。何事も自分だったら、自分の父や母だったらと置き換えて検討している。それらの情報は、アセスメントシートなどで職員が共有できるようになっている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の意見を汲み取った介護計画が作成されている。家族面会などを利用し、介護計画の作成の為の意見を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当スタッフとケアマネジャーが、情報交換しながら様態変化のあるときは随時見直しが行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療との連携により、入院が回避できたり、家族の強い希望で最期を看取ったり、その都度、本人や家族の希望に沿った対応に努めている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の多くは地元の方であり、併設の病院がかかりつけ医となっている。他の病院の受診を希望される場合も適切に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の法人の指針を説明するとともに、入居者の気持ちを最優先する取り組みをしている。家族や医療関係者、職員とよく話し合い、主治医の指導の下、職員一体となり支援している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた支援を心がけており、介護記録も具体的な内容で入居者がその行動に至ったと思われる考察なども記録されている。また職員に対しては守秘義務についての誓約書だけでなく日々の会話の中でも指導されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日程は決めているが　自宅での生活を想像しながら入居者の意思を尊重した支援を行っている。天候のよい日は外に出かけたり、飴玉を買いに一緒に出かけたりしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、見た目の彩りを工夫し、入居者と職員の話し合いで献立を作っている。もやしの根きり、盛り付け、下膳なども一緒にしている。職員も同じテーブルで会話を楽しみながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	早めに入りたい人、ゆっくり入りたい人などそれぞれの好みに合わせた支援を行っている。入浴時間も体調に合わせて声かけをしながら行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の会話の中から特技や趣味などを把握し、カラオケ・習字・絵などできることをしていただくことで生き生きとした生活を支援するよう心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の散歩や食材の買い出し、入院されている知人の見舞いなど、一人ひとりのその日の希望に沿った支援を行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放し、このことにより「いつも出られますよ」というケアに取り組んでいる。外出される時には一緒に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は入居者と一緒に行っている。地域の方の協力依頼も行っている。母体病院からの協力体制はできている。スプリンクラーの設置も検討されている。	○	夜間の一人体制時における緊急通報、初期消火、入居者の避難誘導対応の限界を踏まえての訓練の実施と、地域や母体病院の協力体制の更なる充実を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事の形態、量、嗜好を考慮しながら1日を通じ摂取量の把握、記録により継続的な支援が行われている。毎食前の嚥下体操や嚥下に問題を抱えている人には専門家の指導のもとアイスマッサージなども行われている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家庭で使われている電化製品や家具などを使用し、いつも家庭、家族を意識した支援を心がけている。季節の花や貼り絵、食事の前の歌で四季を感じられる支援に努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	配偶者の写真を飾ったり、鏡台を持参されている方もある。入居時にはできるだけ使い慣れた家具の持込をお願いしている。		